

化学肥料低減計画書

秋用肥料	春用肥料	年間

注：該当するものに○を付けること

作付概要

作物名	作付面積(a)
その他	
計	

氏名(法人・組織名) _____
 住所 _____
 電話番号 _____

1. これまで実施してきた、令和4年度又は令和5年度に実施する取組メニューに「○」を付けてください。
2. 前年度までの取組、令和4年度又は令和5年度に取り組むメニューの面積を記載してください。
3. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。
 そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	取組面積(a)	令和4年度又は令和5年度の取組	取組面積(a)
ア 土壌診断による施肥設計				
イ 生育診断による施肥設計				
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入				
エ 堆肥の利用				
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)				
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)				
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用				
ク 緑肥作物の利用				
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用				
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用				
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)				
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用				
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用				
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)				
ソ 地域特認技術の利用()				
タ 総取組面積	a(ア～ソの合計)		a(ア～ソの合計)	

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり、確約します。

令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、自らの農業生産に使用します。

※チェック欄にチェックした上で署名してください。

氏名(自署) _____

(注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年5月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。
 なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。

化学肥料低減計画書

秋肥か春肥かのどちらかに○

年間作付面積

作付概要	
作物名	作付面積(a)
トマト	10
コマツナ	40
その他	20
計	70

化学肥料低減の取組を行う
主要な品目を2つ、それ以外はその他に面積を記入

秋用肥料	春用肥料	年間
○		

注: 該当するものに○を付けること

氏名(法人・組織名) 立川 太郎
 住所 立川市緑町XX番地XX号
 電話番号 042-XXX-XXXX

1. これまで実施してきた、令和4年度又は令和5年度に実施する取組メニューに「○」を付けてください。
2. 前年度までの取組、令和4年度又は令和5年度に取り組むメニューの面積を記載してください。
3. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	取組面積(a)	令和4年度又は令和5年度の取組	取組面積(a)
ア 土壌診断による施肥設計				
イ 生育診断による施肥設計				
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入				
エ 堆肥の利用	○	10	◎	15
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)				
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)				
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用				
ク 緑肥作物の利用			○	10
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用				
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用				
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)				
シ 局所施肥(側条施肥、つね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用				
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用				
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)				
ソ 地域特認技術の利用()				
タ 総取組面積		10 _{a(ア～ソの合計)}		25 _{a(ア～ソの合計)}

年間取組面積

堆肥の使用面積を増加する(取組を強化・拡大する)ため◎。

2つ以上○が必要。
前年度までの取組を含む場合、1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(◎)とします。
令和4～5年度の2年間で取り組むことが補助金の要件となります。

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり、確約します。



令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、自らの農業生産に使用します。

※チェック欄にチェックした上で署名してください。

氏名(自署) 立川 太郎

(注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年5月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。
なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。